



豊東小だより

令和2年 1月 8日 1月号
練馬区立豊玉東小学校
校長 梅津 靖子

人と人との関わりの輪を広げよう

校長 ^{うめ} ^つ ^{やす} ^こ
梅津 靖子

明けましておめでとうございます。令和として迎える初めての新年。令和2年が始まりました。児童一人一人の、そしてご家族や地域の皆様の穏やかで健やかな1年を心より願い、新年のご挨拶を申し上げます。

今年は、待ちに待った東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。開催まであと198日です。代表選手も次々と発表され、オリパラを目指す選手のみならず、東京2020に関わる様々な分野の実に多くの人々が、夢と目標の実現を目指し、全力で取り組んでいることが報道等からも伝わってきます。人と人が網を成すように関わりの輪が広がっているようです。

さて、3年生以上の学年で実施している外国語活動では、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるために、担任とALTとで学習を進めています。学習指導要領の外国語科の目標には、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ・・・」と示されています。さらに、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と説明されています。単に英語を覚えるということではなく、外国語やその背景にある文化を理解しようとする態度や、多様な人々との関わりの中で、相手の思いや考えを理解しようとする姿勢をもつことが大切だということです。他の国の文化、他者の思いや考えの全てを理解することなど到底できることではありません。しかし、相手の話す言葉をよく聞いて何とかその思いを理解しようとする、自分の思いや考えを理解してもらいたいと丁寧に伝えようとする態度を身に付けていく経験を大事にしていきたいものです。社会や世界が大きく変動していくことが予測されていますが、こうしたコミュニケーション力が豊かな社会の根底であることに変わりはありません。東京2020オリンピック・パラリンピックを機に、児童一人一人が、社会や世界とのつながりを通して、多様な人々と関わることの素晴らしさを存分に感じ取ることができるように、本校の教育活動も推進していかなければならないと考えます。

本校では、オリパラ教育の一環として、日本の伝統・文化を体験する活動や、パラリンピック競技の体験も計画しています。12月に、3年生でお琴体験の授業が実施されました。講師である川村先生の説明をよく聞き、「さくらさくら」の演奏に挑戦していました。「明日も琴の練習はできますか。」との質問の声が上がるほど、楽しそうにお琴を演奏していました。最後には、琴と尺八による演奏も聞かせていただき、日本の伝統的な楽器の奏でる音色に驚くとともに、大いに関心を高めていました。1月には、4年生が、東京都の伝統工芸である「手描き友禅」の体験をします。練馬区伝統工芸展で鑑賞した作品のイメージを膨らませて挑戦してくれることでしょうか。また、3年・4年生は、ポッチャ体験（講師：「CIL ちょうふ（代表の秋元妙美さんは、ロンドンパラリンピックに出場）」）、5年生は、パラ卓球の岩渕幸洋選手（世界ランキング【クラス9・立位】第2位）の講演と卓球体験を予定しています。8月には、パラリンピックの観戦が予定されていますので、これらの体験を通して、パラリンピック競技への関心も一層の高まりそうです。

日頃の教育活動の中でも、言葉を大切にし、他者とのよりよい関わりを様々な出会いの中で育んでいくことに力を入れていきます。そこで、次年度から、全学年でのクラス替えを実施いたします。6年間を通して様々な関わりをもち、良好な人間関係を作っていこうとする力を養う機会が広がるようにしたいと思います。1年間の出会いをより大切にできるようにしていきます。また、学校公開だけでなく、保護者・地域の方々との連携・協働を一層深め、よりより社会を創る担い手となる子どもたちを共に育てる教育活動を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。